



「高校生の進路と職業意識に関する調査（令和5年：国立青少年教育振興機構）」によると、「将来希望する職業を決めているか？」の質問に対して「決めている」と答えた生徒は約半分（54.6%）で、半数近くがまだモラトリアムの中にいるようです。本校生も、きっとその渦中にいるのだと思いますが、1・2年生は、6月までに来年度の「文型・理型」や「選択科目」を決めることになります。また、3年生も、いよいよ「学部・学科」や「志望校」を絞る時期になってきました。そこで、今回は、進路探究について触れてみたいと思います。

## I 進路を、探ってみる！

### ① 自分に合った仕事を探ってみる！【職業探究】



前述の調査で「職業を選ぶにあたって重視することは？」の質問に対し、「仕事の環境（67.9%）」や「安定性（65.1%）」、つまり“ホワイト度”のような指標が最上位にくるという近年の傾向がありますが、ちょっとさみしいですね。ただ、「自分の興味や好みに合っている（64.9%）」との答えは常に上位を占めています、しかし一方、「自分にはどのような適性があるか知っているか？」の質問に対して「そう思う（56.1%）」と答えた生徒は、米国・中国・韓国と比べて最も低く、自己理解が深まっていないまま職業選択の時期を迎えてしまっているという現状も浮かび上がります。それが、新卒入社3年以内の離職率3割以上という値につながっているのかもしれませんが。

「好きなこと」は自分をわくわくさせ、「したいこと」は自分を前向きにさせてくれます。まずは、自己理解を深め、自分が本当に「好きなこと」「したいこと」は何なのかを探ってみましょう。その上で、その延長線上に将来の仕事を見つけることが理想だと思います。過去の自分を振り返ったり、家族や友人に自分のことを尋ねたりしてみてください。また、「自己診断ツール（厚生労働省）」や「性格検査（スタディアアプリ）」や「職業適性検査（ベネッセ）」のQRコードを掲載しますので参考として下さい。

### ② 自分がめざす仕事につながる学問分野を探ってみる！【学部・学科探究】

例えば、「スマホが好き」な人がいたとしましょう。すぐに思いつく職業は、ゲームクリエイターだったり、システムエンジニアやプログラマーだったりするのかもしれませんが。すると、それらの仕事につながる学問は、情報系の学部・学科ということになります。しかし、もっとスマホを便利な道具にしたいということあれば、工学部の情報知能学科で、アルゴリズムや電子回路について学ぶということも考えられますし、スマホを広告や電子書籍として活かしたいということになれば、仕事としてはマスコミ系、大学では社会学部でメディア論を専攻しても良いわけです。また、薬学部に進んで、将来は医療の方面から社会に貢献したいという人がいたとします。薬学部なら薬剤師かと考えるかもしれませんが、薬を創り出すということであれば、創薬にかかわる化学系の学科に進学するという方向性も考えられるわけです。さらに、国際的なことに興味があるとします。一般的には、国際学部や外国語学部が浮かんできますが、文化の違いに興味があるということであれば、文学部の中の比較文化学や文化人類学などもそれらの候補に挙がってくるはずですが、高校は、各学問分野の先生が揃っている「ミニUniversity」なわけですから、興味がある分野に近い教科の先生に尋ねてみると、有効なアドバイスを得ることができるでしょう。先生を利用しましょう。

どうしてもやりたいことが見つからない。でも、四年制大学には進みたいという人は、教養学部に進み大学に進学してから文系・理系を問わず専攻を決めることもできます。また、とりあえず、文系なら創成学部や地域創造学科等に進学し、理系なら総合理系の入試方法を選び、2・3年次に専攻を固めるという方法もあります。ただ、進学後に「ここにはやりたいことはなかった」とならないよう、できるかぎり専攻のイメージは絞っておきましょう。

学部・学科探究で、動画配信サイトを利用するのも一つの方法です。みなさんにとってより関心のある等身大の情報を得ることができると思います。ただ、ネット上の情報は、私感が強かったり、その背後に広告主がいたり、情報の正確さに若干の問題もあります。情報リテラシーを働かせて、批判的に情報を入手して下さい。

### ③ 自分が学びたい学校を探ってみる！【志望校探究】

今年度を通して、1年生は、①【職業探究】から②【学部・学科探究】に取り組み、2年生は、②【学部・学科探究】の段階から、ここで述べる③【志望校探究】に移行してほしいと願っています。3年生については、言わずもがな、③【志望校探究】に専念するだけです。学部・学科から具体的な学校を探す際、皆さんが既に活用している「マナビジョン (Benesse)」が便利です。下記のQRコードから「大学検索」をすると、大学の学部・学科、入試制度、偏差値、就職・資格、先輩体験記、そして、オープンキャンパスの情報などが得られます。ただ、学部・学科の内容で注意しなければならないことがあります。それは、学部・学科のその下のコースや専攻の中に、みなさんが学びたい内容が実は隠されていたりすることもあるということです。

福島大学の行政政策学類で、考古学や戦国期の政治史を学べるって知っていましたか？「行政政策」という言葉からイメージするのは、他大学の法学部に相当する「地域政策と法コース」、しかし、行政政策学類には、もう一つ「地域と社会文化コース」があり、歴史学の他、社会学や福祉学、英米文学・仏文学や言語学、比較文化論や情報社会論。もっと細かな分類でいえば、災害情報論、映像文化論、外国人支援論なども学べるのです。これは、ほんの一例に過ぎません。学部・学科だけでなく、さらに、その下のコースや専攻まで目配りする必要があります。

そんな時、一助となるのが、各大学のHPの「学部紹介」の中にある「教員・研究者情報」「教員紹介」なる項目です。そこを開くと、その大学の先生がどんな内容を専門にしているのか、その大学にはどんなゼミ(研究室)があるのか分かります。自分が学びたい内容にピタッと当てはまる先生の下で学ぶことができたなら、それは、どんなに幸せなことでしょう。そうした思いが、受験勉強の大きなモチベーションにもなるのではないのでしょうか。是非、探ってみて下さい。

マナビジョン  
大学検索



マナビジョン  
オーキャン情報



## Ⅱ 進路を、体験してみる！

### ① 校内外での体験活動に参加してみる！

食べ物の好き嫌いも、実際に食べてみないと分からないのと同じように、自分が何に興味があるのかも、実際に体験してみないと実感が湧かないと思います。だからこそ「〇〇体験」や「◇◇ボランティア」なるものに積極的に参加してほしいと思います。実は、本校でも「特別支援学校との交歓会」や「国際交流」「被災地研修」を企画している他、外部団体主催の「看護体験」や「まちづくりの若者会議」や「各種ボランティア活動」をポスターや教室掲示などを通じ、皆さんに案内しています。自治体の社会福祉協議会や市民活動サポートセンターに自ら電話で問い合わせたり、右のボランティア情報検索サイト「activo」から調べたりするのもいいでしょう。アンテナを高くして自ら情報を入手し、将来の職業を疑似体験してみてください。



### ② オープンキャンパスに行ってみる！

体験という意味では、実際に学問の現場に足を運んでみることをおすすめします。オープンキャンパスは、2年生までに参加するのが基本です。志望校が固まっていなくとも、大学で、模擬講義に参加したり、研究室を見学したりすることで、学部・学科探究にもつながります。また、大学に学費を収めることは、これまでの人生の中できっと最大の出費になると思います。年間数十万円から百何十万円する買い物をするわけですから、いくつも商品を見て、他と比べながら自分に合ったより良い選択をしましょう。商品が決まったら、あとは自分がそれを購入するに値する価値(≒学力)を身につけるだけです。右上のQRコードからも検索できます(申込日当日に定員となる大学もありますので申込開始日をチェックしておきましょう)。

### ③ 「合格体験記」を読んでもみる！

進路探究の最後は、その学校が求めているスキル(=学力)をこちらが準備することですが、その学力向上がままなりません。そんな皆さんの悩みに答えてくれる先輩方が、『進路の手引き』の冊子の中に45名もいます。彼らも山や谷を経験しながら、合格を手にしたことがよく伝わってきます。効果的な学習方法を教わったあとは、この1年間を見通した自分なりの「My年間学習計画」を策定して下さい。その計画を達成できるかどうか、合格の鍵になるはずですよ。



「高校生の進路と職業意識に関する調査（令和5年：国立青少年教育振興機構）」によると、「将来希望する職業を決めているか？」の質問に対して「決めている」と答えた生徒は約半分（54.6%）で、半数近くがまだモラトリアムの中にいるようです。本校生も、きっとその渦中にいるのだと思いますが、1・2年生は、6月までに来年度の「文型・理型」や「選択科目」を決めることになります。また、3年生も、いよいよ「学部・学科」や「志望校」を絞る時期になってきました。そこで、今回は、進路探究について触れてみたいと思います。

## I 進路を、探ってみる！

### ① 自分に合った仕事を探ってみる！【職業探究】



前述の調査で「職業を選ぶにあたって重視することは？」の質問に対し、「仕事の環境（67.9%）」や「安定性（65.1%）」、つまり“ホワイト度”のような指標が最上位にくるという近年の傾向がありますが、ちょっとさみしいですね。ただ、「自分の興味や好みに合っている（64.9%）」との答えは常に上位を占めています、しかし一方、「自分にはどのような適性があるか知っているか？」の質問に対して「そう思う（56.1%）」と答えた生徒は、米国・中国・韓国と比べて最も低く、自己理解が深まっていないまま職業選択の時期を迎えてしまっているという現状も浮かび上がります。それが、新卒入社3年以内の離職率3割以上という値につながっているのかもしれない。

「好きなこと」は自分をわくわくさせ、「したいこと」は自分を前向きにさせてくれます。まずは、自己理解を深め、自分が本当に「好きなこと」「したいこと」は何なのかを探ってみましょう。その上で、その延長線上に将来の仕事を見つけることが理想だと思います。過去の自分を振り返ったり、家族や友人に自分のことを尋ねたりしてみてください。また、「自己診断ツール（厚生労働省）」や「性格検査（スタディアアプリ）」や「職業適性検査（ベネッセ）」のQRコードを掲載しますので参考として下さい。

### ② 自分がめざす仕事につながる学問分野を探ってみる！【学部・学科探究】

例えば、「スマホが好き」な人がいたとしましょう。すぐに思いつく職業は、ゲームクリエイターだったり、システムエンジニアやプログラマーだったりするのかもしれませんが、すると、それらの仕事につながる学問は、情報系の学部・学科ということになります。しかし、もっとスマホを便利な道具にしたいということあれば、工学部の情報知能学科で、アルゴリズムや電子回路について学ぶということも考えられますし、スマホを広告や電子書籍として活かしたいということになれば、仕事としてはマスコミ系、大学では社会学部でメディア論を専攻しても良いわけです。また、薬学部に進んで、将来は医療の方面から社会に貢献したいという人がいたとします。薬学部なら薬剤師かと考えるかもしれませんが、薬を創り出すということであれば、創薬にかかわる化学系の学科に進学するという方向性も考えられるわけです。さらに、国際的なことに興味があるとします。一般的には、国際学部や外国語学部が浮かんできますが、文化の違いに興味があるということであれば、文学部の中の比較文化学や文化人類学などもそれらの候補に挙がってくるはずですが、高校は、各学問分野の先生が揃っている「ミニUniversity」なわけですから、興味がある分野に近い教科の先生に尋ねてみると、有効なアドバイスを得ることができるでしょう。先生を利用しましょう。

どうしてもやりたいことが見つからない。でも、四年制大学には進みたいという人は、教養学部に進み大学に進学してから文系・理系を問わず専攻を決めることもできます。また、とりあえず、文系なら創成学部や地域創造学科等に進学し、理系なら総合理系の入試方法を選び、2・3年次に専攻を固めるという方法もあります。ただ、進学後に「ここにはやりたいことはなかった」とならないよう、できるかぎり専攻のイメージは絞っておきましょう。

学部・学科探究で、動画配信サイトを利用するのも一つの方法です。みなさんにとってより関心のある等身大の情報を得ることができると思います。ただ、ネット上の情報は、私感が強かったり、その背後に広告主がいたり、情報の正確さに若干の問題もあります。情報リテラシーを働かせて、批判的に情報を入手して下さい。

### ③ 自分が学びたい学校を探ってみる！【志望校探究】

今年度を通して、1年生は、①【職業探究】から②【学部・学科探究】に取り組み、2年生は、②【学部・学科探究】の段階から、ここで述べる③【志望校探究】に移行してほしいと願っています。3年生については、言わずもがな、③【志望校探究】に専念するだけです。学部・学科から具体的な学校を探す際、皆さんが既に活用している「マナビジョン (Benesse)」が便利です。下記のQRコードから「大学検索」をすると、大学の学部・学科、入試制度、偏差値、就職・資格、先輩体験記、そして、オープンキャンパスの情報などが得られます。ただ、学部・学科の内容で注意しなければならないことがあります。それは、学部・学科のその下のコースや専攻の中に、みなさんが学びたい内容が実は隠されていたりすることもあるということです。

福島大学の行政政策学類で、考古学や戦国期の政治史を学べるって知っていましたか？「行政政策」という言葉からイメージするのは、他大学の法学部に相当する「地域政策と法コース」、しかし、行政政策学類には、もう一つ「地域と社会文化コース」があり、歴史学の他、社会学や福祉学、英米文学・仏文学や言語学、比較文化論や情報社会論。もっと細かな分類でいえば、災害情報論、映像文化論、外国人支援論なども学べるのです。これは、ほんの一例に過ぎません。学部・学科だけでなく、さらに、その下のコースや専攻まで目配りする必要があります。

そんな時、一助となるのが、各大学のHPの「学部紹介」の中にある「教員・研究者情報」「教員紹介」なる項目です。そこを開くと、その大学の先生がどんな内容を専門にしているのか、その大学にはどんなゼミ(研究室)があるのか分かります。自分が学びたい内容にピタッと当てはまる先生の下で学ぶことができたなら、それは、どんなに幸せなことでしょう。そうした思いが、受験勉強の大きなモチベーションにもなるのではないのでしょうか。是非、探ってみてください。

マナビジョン  
大学検索



マナビジョン  
オーキャン情報



## Ⅱ 進路を、体験してみる！

### ① 校内外での体験活動に参加してみる！

食べ物の好き嫌いも、実際に食べてみないと分からないのと同じように、自分が何に興味があるのかも、実際に体験してみないと実感が湧かないと思います。だからこそ「〇〇体験」や「◇◇ボランティア」なるものに積極的に参加してほしいと思います。実は、本校でも「特別支援学校との交歓会」や「国際交流」「被災地研修」を企画している他、外部団体主催の「看護体験」や「まちづくりの若者会議」や「各種ボランティア活動」をポスターや教室掲示などを通じ、皆さんに案内しています。自治体の社会福祉協議会や市民活動サポートセンターに自ら電話で問い合わせたり、右のボランティア情報検索サイト「activo」から調べたりするのもいいでしょう。アンテナを高くして自ら情報を入手し、将来の職業を疑似体験してみてください。



### ② オープンキャンパスに行ってみる！

体験という意味では、実際に学問の現場に足を運んでみることをおすすめします。オープンキャンパスは、2年生までに参加するのが基本です。志望校が固まっていなくとも、大学で、模擬講義に参加したり、研究室を見学したりすることで、学部・学科探究にもつながります。また、大学に学費を収めることは、これまでの人生の中できっと最大の出費になると思います。年間数十万円から百何十万円する買い物をするわけですから、いくつも商品を見て、他と比べながら自分に合ったより良い選択をしましょう。商品が決まったら、あとは自分がそれを購入するに値する価値(≒学力)を身につけるだけです。右上のQRコードからも検索できます(申込日当日に定員となる大学もありますので申込開始日をチェックしておきましょう)。

### ③ 「合格体験記」を読んでもみる！

進路探究の最後は、その学校が求めているスキル(=学力)をこちらが準備することですが、その学力向上がままなりません。そんな皆さんの悩みに答えてくれる先輩方が、『進路の手引き』の冊子の中に45名もいます。彼らも山や谷を経験しながら、合格を手にしたことがよく伝わってきます。効果的な学習方法を教わったあとは、この1年間を見通した自分なりの「My年間学習計画」を策定して下さい。その計画を達成できるかどうか、合格の鍵になるはずです。